

ライフ&マナープラン

【結婚にかかる費用】

このコーナーでは、転職、退職など人生の転機で役に立つ、生活設計におけるマナープランをご紹介します。社会人は、日々の仕事に追われがちですが、将来を見据えたマナープランを考えていくことも大切です。今回はいくつかある人生の節目のひとつ、結婚にかかる費用について取り上げます。最近のデータをもとに支出の内容や金額、また結婚費用の準備について考えてみましょう。

最近の結婚費用

私たちは、入学、卒業、進学と、人生でさまざまな節目を経験していきませんが、多くの場合、就職という節目を境に、勤労者というお金を稼ぐ立場へと変わっていきます。では、勤労世帯にとってはその後どのような人生の節目があり、どれくらいの支出が考えられるでしょうか。

最初に訪れる節目のひとつに結婚があります。結婚年齢が上昇しており、2010年の平均初婚年齢は男性で30・5歳、女性で28・8歳（2012年版人口統計）となっています。こうした結婚年齢の上昇が進む中で、結婚に関する費用の相場はどうなっているのでしょうか。大手ブライダル情報誌の調査によると、挙

表

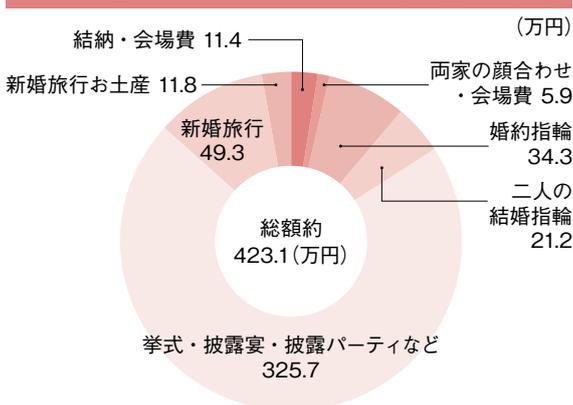
挙式関連費用の全国推計値

挙式関連費用の全国推計値 (万円)				
総額		挙式料	料理・飲み物 (1人あたり)	新婦の衣装
325.7		23.7	1.7	42.8
新郎の衣装	ブライダルエステ	ギフト	ブーケ (1個あたり)	会場装花
15.0	8.1	34.1	2.6	16.6
ウェルカムアイテム	親へのギフト	映像を使った余興や演出	スナップ写真費用	ビデオ撮影費用
1.3	3.2	7.0	20.5	15.6

※項目別平均額は実施した人の平均額なので、各項目の平均金額の合計は総額と異なっている。

グラフ1

結婚費用(結納・婚約～新婚旅行まで)の全国推計値



※項目別平均額は実施した人の平均額なので、各項目の平均金額の合計は総額と異なっている。

式、披露宴・披露パーティなどの費用総額は平均320万円を超えています。その内訳は、左表のとおりとなっています。

ただしこれはあくまでも挙式などにかかる費用で、結婚全般にかかる費用はさらに増え、総額では420万円を超える大変な高額となっています。



さまざまなことにお金がかかりますが、中でも近年はブライダルエステの利用が増えているようで、費用としては平均8万1000円となっています。

結婚費用を抑えるには、こうした費用を見直したり写真撮影やビデオ撮影を友人などに依頼するなどし、式そのものやお招きするお客さまに影響が及ばないところから節約を考えることがよいかもしれません。

また、披露宴に招くお客さまの人数も費用に直結する要素です。できるだけ費用を抑えたいと考えるならば、招く方の基準など二人が納得のいくようにじっくり相談しながら決める努力が必要となるでしょう。同時に式や披露宴の場所やスタイルも十分に考慮しておきましょう。

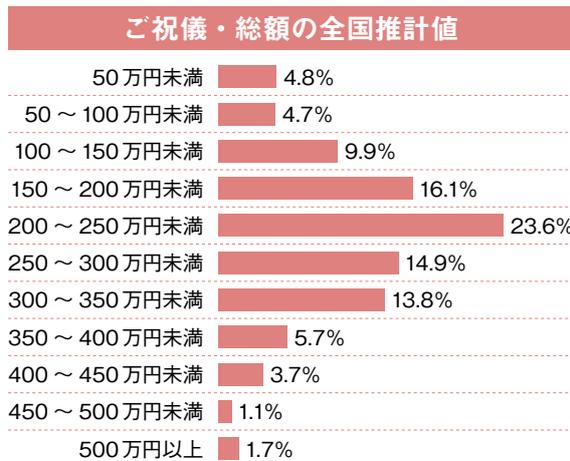
このほか新居を構える場合は、家財道具などにも費用がかかるもの。家電製品だけでなく、雑貨などを買い揃えていくと思いのほか多額になりますから、注意しましょう。しっかりと買い揃えたいと思っているのであれば、余裕を持って資金を準備しておきたいものです。

結婚費用の捻出

非常にお金のかかる結婚。その費用はどうやって賄えば良いでしょうか。もちろんご祝儀をいただくことでその費用の一部を賄えますし、親からの援助などを受ける場合も少なくありません。ご祝儀の額の分布はグラフ2のと

おりとなっています。最も多いご祝儀は200〜250万円の金額帯です。

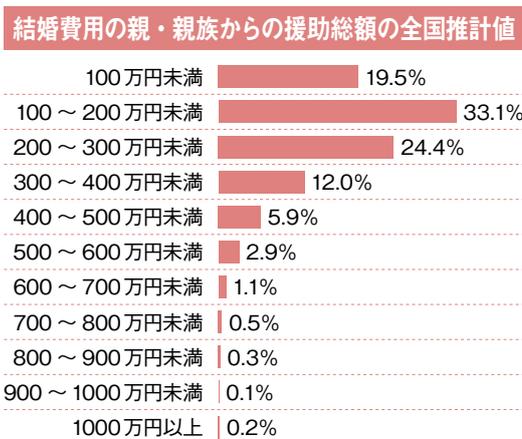
グラフ2



ご祝儀制の披露宴や披露パーティをした人が受け取ったご祝儀総額の金額別分布。平均は223.8万円

親・親族からの援助はグラフ3のとおりとなっています。その平均額は約193.2万円となっています。

グラフ3



結婚費用（結納、挙式、披露宴・披露パーティ、二次会、新婚旅行合わせて）の親・親族から援助があった人の援助総額の金額別分布。平均は193.2万円

では、二人でどれくらいの準備をしておけばよいのでしょうか。

ある調査では結婚のために貯金をしている人は8割以上おり、目標金額は、1位が「100万〜200万円」（36%）、2位が「50万〜100万円」（24%）、3位が「200万〜300万円」（23%）でした。またその貯金期間は「半年〜1年くらい」と答えた人が最も多く29%です。

貯金の方法は自分の収入から毎月定額を積み立てている人が60%と最も多く、次いでパートナーと毎月定額を積み立てている人が26%となり、多くの人がきちんと積み立てをしているようです。

結婚という目標を目の前におき、計画的に貯金をすることが大切だと考えていることがよくわかります。

別の方法としては「毎月余ったお金をすべて貯金する」「残業分を貯金に回す」などさまざまなですが、大切なことはお互い無理のない形で、いかに貯めるか。二人で目標を達成するために、こうした機会に十分話し合っておくことが、結婚後の家計管理や、これからの生活設計にも役立つ第一歩となるのではないのでしょうか。

※グラフ1～3の全国推計値は、各地域の婚姻件数（平成20年厚生労働省人口動態調査）に合わせてウェイト付けをした推計値を掲載しています。